

様式 8

：「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「芦田川きれい☆きれいプロジェクト
『河川浄化チャレンジ月間』」

助成番号：2018-6113-008

芦田川環境マネジメントセンター
田中 宏行

平成 30 年度

1. 事業概要

芦田川環境マネジメントセンター、国土交通省 福山河川国道事務所及び福山市は、芦田川の水質浄化に取り組む『河川浄化チャレンジ月間』を、平成 30 年 11 月 1 日～11 月 30 日の 1 ヶ月間実施しました。

『河川浄化チャレンジ月間』は平成 19 年度からスタートしており、通算で 12 回目となります。今年度は、瀬戸学区・駅家学区・津之郷小学校・赤坂小学校・御野小学校・中条小学校・服部小学校・宜山小学校・常金丸小学校・駅家東両学校・駅家西小学校・駅家小学校・御幸小学校・網引小学校・瀬戸小学校・幸千中学校及び流域の市民団体の皆様にアンケートにご協力をいただくとともに、瀬戸川・高屋川流域を中心に、芦田川流域全体に“家庭で出来る水質浄化の取り組み”の実践を呼びかけました。

参加者からは、意識の変化や今後の取り組みへの決意など、年間を通じた取り組みとして流域全体へ展開していくことが期待できる積極的な意見を多数いただきました。

今後は、このような芦田川の水質浄化に向けた草の根運動が契機となって、各家庭に水質浄化の取り組みが定着するとともに、芦田川流域全体に広まり、芦田川の水質が改善していくことを期待します。

2. 取り組み内容

2.1 取り組み状況

流域の町内会や、学校、地元団体、企業などに広く取り組みの実践を呼びかけた結果、全体で 1,790 世帯に参加いただきました。

水質調査では、生活排水等の汚れの量が削減されており、多くの方々に取り組んでいただいた結果であると考えます。

なお、図 2.1 に示す学区・小学校には、チラシやアンケートの配布・回収にご協力をいただきました。参考として、以下にアンケート回収数を示します。

瀬戸川流域	：	1,092 世帯	
(瀬戸学区、津之郷小学校、赤坂小学校など)			
高屋川流域	：	474 世帯	
(駅家小学校、御幸小学校、服部小学校など)			
芦田川本川流域等	：	224 世帯	
			計 1,790 世帯

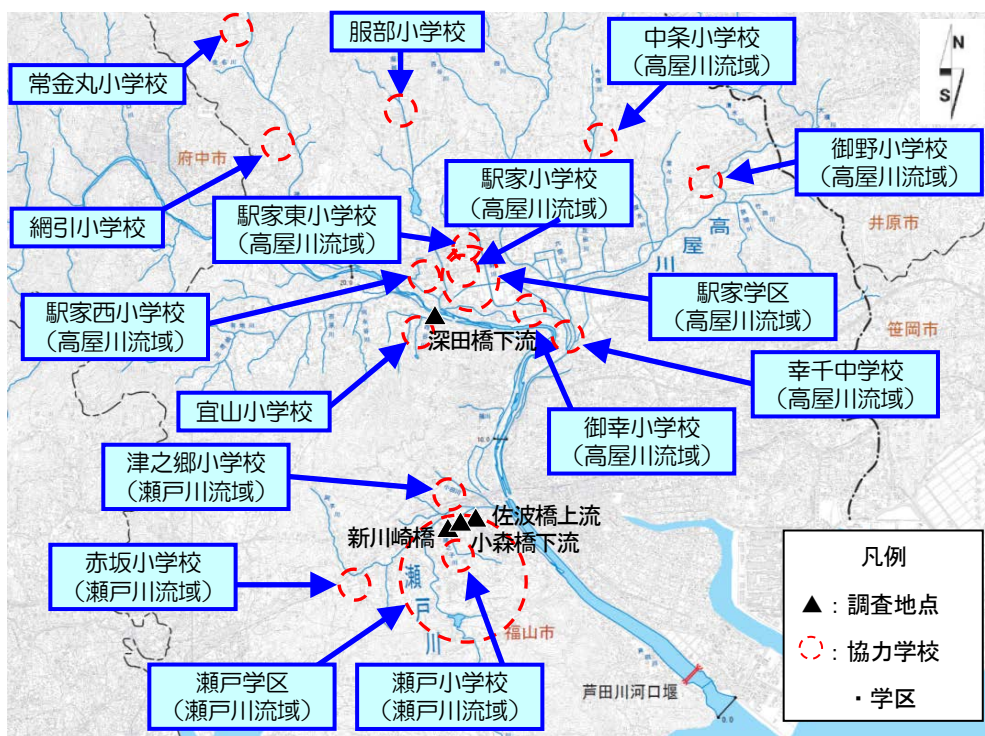


図 2.1 ご協力いただいた学区および学校のエリアと水質調査地点

表 2.1 ご協力いただいた学区・学校・団体

参加手法	団体・対象地域等	備考
ホームページ	芦田川流域	
ハガキ	全体	
町内会	瀬戸学区(瀬)	
	駅家学区(高)	
小学校	津之郷小学校 (瀬)	5年生
	御野小学校 (高)	4年生
	中条小学校 (高)	4~6年生
	赤坂小学校 (瀬)	4~6年生
	服部小学校 (高)	5,6年生
	駅家西小学校 (高)	4年生
	常金丸小学校 (芦)	5,6年生
	宜山小学校 (芦)	全学年
	駅家東小学校 (高)	4年生
	網引小学校 (芦)	4年生
	瀬戸小学校 (瀬)	全学年
	駅家小学校 (高)	4年生
	御幸小学校 (高)	4年生
幸千中学校 (高)	全学年	
団体	堂々川林外同好会	
	めだかの学校	

※ (瀬) : 瀬戸川流域、(高) : 高屋川流域、(芦) : 芦田川中・上流域

【参考】瀬戸学区（町内会）での説明会の様子

福山市環境保全課にご協力いただき、学区での説明会を行いました。チラシや啓発教材（水切りネット）を配布し、家庭でできる取り組みの実践について、説明を行い、チラシの配布、アクションシートへの記入について、ご協力をお願いしました。

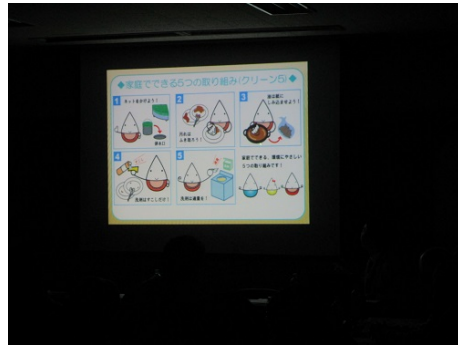


図 2.2 河川浄化チャレンジ月間の説明会の様子

2.2 取り組み項目

各家庭で5つの取り組みを実施していただきました。5つの取り組み項目を図 2.3 に示します。

- ① 排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない
- ② 汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う
- ③ 食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりしてごみとして出す
- ④ 食器類を洗う時に、洗剤の使用量を減らす
- ⑤ 洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける



図 2.3 取り組み項目

2.3 水質調査スケジュール

水質調査は以下のとおり実施しました。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| • 平成30年 9月～ | 事前説明（各学区会長、町内会長等） |
| • 平成30年10月 18～19日 | 水質測定（取り組み前） |
| • 平成30年11月 1日～ | 水質浄化の取り組みの実践（1カ月間） |
| • 平成30年11月 15～16日 | 水質測定（取り組み中） |
| • 平成30年11月30日 | 水質浄化の取り組み終了 |
| • 平成30年12月～ | アンケート等の回収・整理 |
| • 平成31年 2月中 | 結果のとりまとめ・公表 |

3. 実施結果

3.1 水質調査結果

調査前後の汚れの量で見ると、実施前に比べ実施中は、BOD に関しては 3%、T-P に関しては 14%、汚れの量の減少が確認されました。汚れの量はほとんど流量(流れの量)に影響される状況でした。

調査期間中の瀬戸川の水質はばらつきがありましたが、全調査地点の BOD 平均値は実施前で約 2.8 mg/L であり、瀬戸川下流域の環境基準 (3 mg/L) ※と同程度での調査となりました。

各取り組み項目について、本チャレンジ月間の前後も含め流域住民の皆さまに取り組んでいただいていることで、良好な水質が維持されていると考えられます。

なお、本調査はあくまで改善傾向を把握するものであり、朝・夕 1 回ずつの調査結果となるため、汚濁負荷の減少率は正確な削減率というわけではありません。

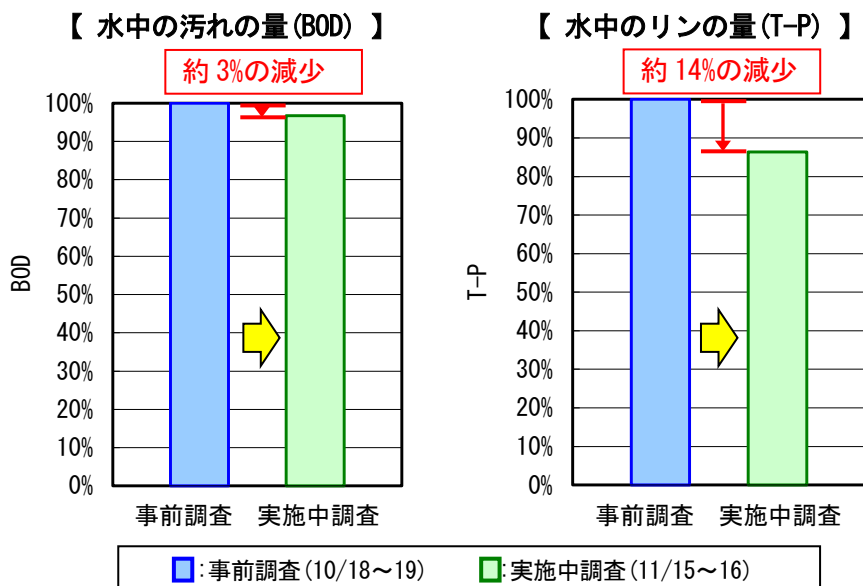


図 3.1 水質調査結果の比較 (瀬戸川流域/全地点の平均)



図 3.2 水質調査実施状況 (左: 事前、右: 実施中)

3.2 参加者からの意見（一部抜粋）

取り組み実施後のアンケートでは、意識の変化や今後の取り組みへの決意など、年間を通じた取り組みとして流域全体へ展開していくことが期待できる積極的な意見を多数いただきました。

- 河川浄化チャレンジを行って今年で4年目です。チャレンジ月間でなくても日頃から取り組めるようになったと実感しています。今後も続けていきたいと思います。
- 環境問題への関心・実行力には留意しているつもりですが、一年に一度、このような調査で気持ちを新たにできるので、本月間の実施は大変良いことだと思っています。
- 日頃何げなく行っていることですが、改めて意識して行う（見直す）ことにより、より一層取り組むチャンスをいただいているように思います。
- このようなチャレンジがあることで、さらに浄化意識が高まりました。芦田川は福山の象徴なのでキレイな川にしていきたいです。
- 日々の生活排水が芦田川の保全と直結している事を、この取組に関わられたおかげで知りました。このチャレンジ月間が終わっても、この取り組みは続けていき、子どもへも伝えたいと思いました。
- 個々の意識づけをするという点で、良い取り組みだと思います。みんなが少しずつ気を付けるだけでも、ずいぶん変わると思います。継続することが大切です。

「河川浄化チャレンジ月間」にて実施したアンケート調査結果を取りまとめたものを以下に示します。

3.2.1 Q1 あなたの年代をお答えください。

回答者の年代は、60代以上の方が最も多く約3割、次いで40代の方が約2割という結果となりました。

表 3.1 回答者の年代

Q1	回答者年代 (人)
20代未満	269
20代	29
30代	308
40代	340
50代	125
60代以上	482
無回答	237
合計	1,790

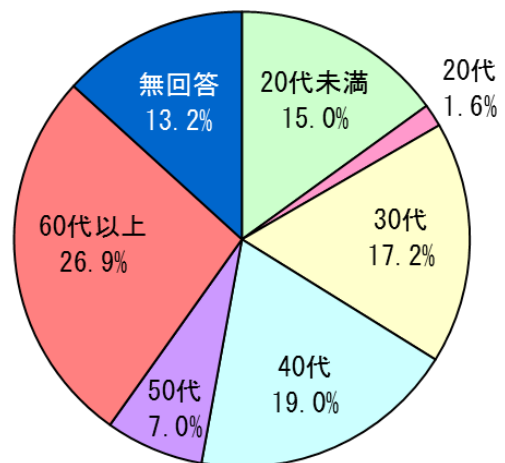


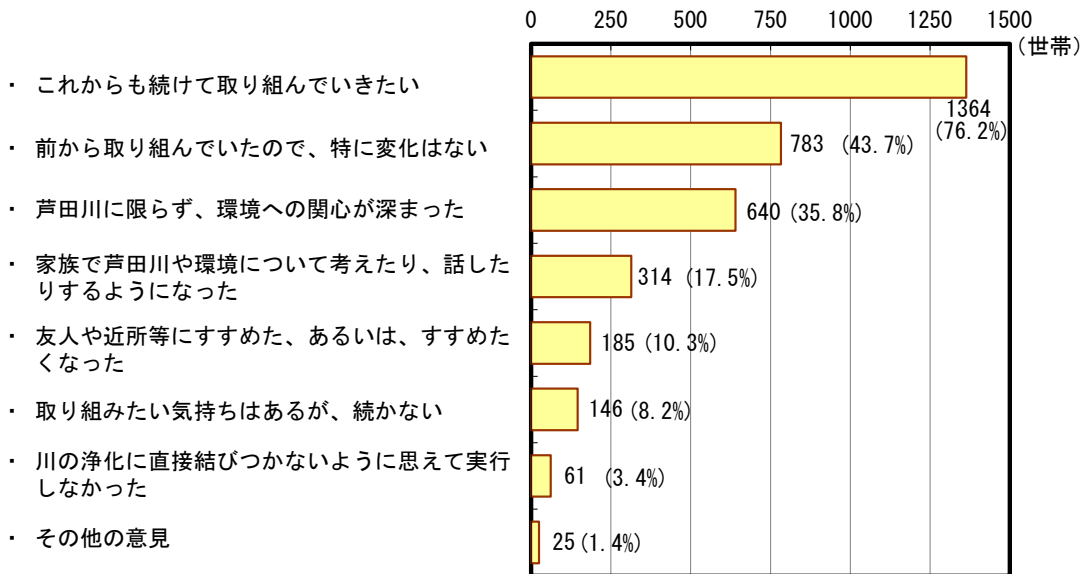
図 3.3 回答者の年代の内訳

3.2.2 Q2 「水質浄化の取り組み」を実行して、感じられた事、行動の変化等はいかがですか？

「これからも続けて取り組んでいきたい」という意見が、全体の約8割と最も多い結果となりました。

「前から取り組んでいたもので、特に変化はない」という意見が全体の約4割強であり、普段から継続して実施している人が半数近くみられる結果となりました。

「芦田川に限らず、環境への関心が深まった」という意見が全体の約4割弱であり、本取り組みを通じた、環境に対する意識向上が確認されました。



[その他の意見 (主な回答)]

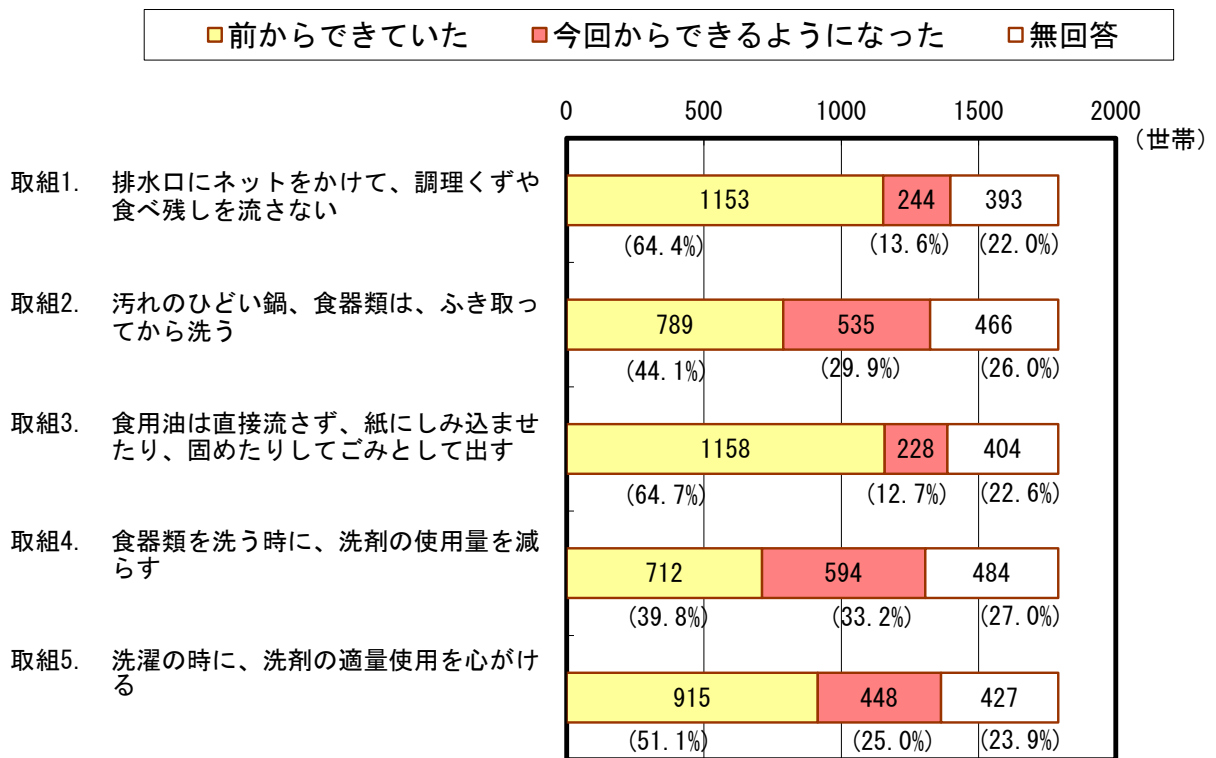
- 継続は力なり。意識してやると続くものですね。
- 近所の出口川にゴミを捨てているのを見ると、悲しいです。川掃除で定期的には綺麗にされているのですが。年に2度、私は草むしりをする程度ですが（町内会でするときのみ参加）。その他、道にタバコの投げ捨てがよく目につきます。みんな場を綺麗にするという気持ちのゆとりがあるといいのですが。中には散歩している方がゴミを拾っていたのでとっても嬉しかったです。私もできる限りゴミ拾いをしようと思いました。
- 15年前子どもが瀬戸川の水を飲んで、学校で水質検査をした所一番汚れていた。それ以降気を付けている。
- 浄化槽の大半が合併槽になれば、少なくとも調理くずや食べ残しが流れなくて水質浄化に良いのでは？
- アンケート開始以前から心掛けて実践してきました。少しは効果がでていのでしょうか？
- ポイ捨てを見たら注意をする様になっている。通学路に面している川などに菓子袋など捨てられると拾って集めて町内会で意見し、1年に1度川、道路などきれいにしている。
- 家族と話すのは、溝といい、芦田川の河川敷といい、何故ゴミが捨てられているのか。どんな人が捨てているのか不思議でならない。
- 1人でも多くの方が対策されると川がきれいになると思いますので、行政でのよびかけを大々的にやるべきです。

3.2.3 Q3 「水質浄化の取り組み」を実行した結果、どのように暮らし方に変化が現れたかをお尋ねします。

「排水口にネットをかけて、調理くずや食べ残しを流さない」「食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりしてごみとして出す」という項目は、6割強程度の世帯で以前から実践されている、という結果になりました。

「汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う」「食器類を洗うときに、洗剤の使用料を減らす」「洗濯の時に、洗剤の適量使用を心がける」という項目は、今回から新たに3割程度の世帯の方に実践していただくことができました。

「その他の取り組み」という項目で、独自の取り組みについてお伺いしたところ、たくさんの回答を頂きました。



[その他の取り組み (主な回答)]

- 残飯を出さない
- 洗剤を使わないタワシで食器を洗う
- 洗濯機排水ホースにネット
- 洗剤のいらないスポンジを使用
- お米のとぎ汁を植木にかける
- 排水溝の定期的掃除
- 環境にやさしい洗剤を使う
- 油汚れ以外はお湯のみで洗う
- 食べ残しをしない

- 生ゴミは生ゴミ処理機で肥料にする
- 無洗米にする
- お風呂のお湯を洗たくの水に使う
- 水を無駄に使いすぎないように心がける
- 川にゴミを捨てない
- 家族・友人に今回のチャレンジの話をする
- シャンプーやトリートメント、リンス等の適量使用を心がける

3.2.4 Q4 『河川浄化チャレンジ月間』について、ご意見・ご感想がありましたらご記入ください。

意識の変化や今後の取り組みへの決意など、年間を通じた取り組みとして流域全体へ展開していくことが期待できる積極的な意見が多数見受けられました。

<河川浄化チャレンジ月間について（主な回答）>

- 各々の水質浄化の家庭の取り組みが、水質改善につながるので、きれいな芦田川になるよう引き続き努力していきたいと思います。
- 生活に水はとても大切な役目をもっていることと、その水を人の手で汚したり失ったりしないよう、自然のしくみを理解しないといけないなと思いました。
- とても良い活動だと思います。環境について関心が深まり、家族で実行していくよい機会になりました。
- 今まで気をつけていましたが、日常生活の中で大切な項目ばかりである。項目をチェックすることで改めて環境についての意識が高まった。一人ひとりのちょっとした気づかみや行動が大切な資源を守ることに繋がったり、汚染がひどくさらに環境を悪くさせることにもなるので、これからも継続して実践していこうと思います。
- このようなチャレンジがあることで、さらに浄化意識が高まりました。芦田川は福山の象徴なのでキレイな川にしていきたいです。
- 分かっているけど意識しないとつい普段通りにしてしまう。今回のチャレンジを機会に今後も習慣になる様取り組んでいきたい。
- 今までやっていた事もあったし、新しいチャレンジといっても、思いつかずやれませんでした。やってこなかった事は、なかなか習慣がつかなかったのですが、出来れば続けて習慣になればいいと思いました。
- 以前より子どもが料理の手伝いをしてくれる時に、「フライパン、きれいに拭いといてね」と、声はかけていましたが、何でそうするのか理由をきちんと丁寧に教えてあげるいい機会になりました。
- チャレンジ月間の時でなくても、いつもあたり前にしている事が（食べ残しを流さないなど）少しでも環境を大切にできているんだなと思いました。
- 子どもも環境問題について考える時間ができ、これからも常に意識して生活して欲しいと思います。

- 子どもも手伝いをしてくれるようになったし、これからも、この取り組みを守って生活していきたいです。
- 子どもに分かりやすく説明があったようで、家でのやり方にも感心を示すようになり有意義でした。
- どのようにすれば、川がきれいになっていくのか。そのことについてよく知れる機会となりました。子どもと一緒に考えながら新しい取り組みが出来ればいいと思います。
- 皆の川なので、環境に日頃から気をつけ、子ども達にもその大切さを日々伝えていければと思います。
- 子ども達に伝えていく必要があるなと感じました。家庭で話題にしていこうと思います。
- 水質浄化について台所では色々考えていましたが、その他の汚水についても川をよごしてしまうと子どもに言われて浄化について考える事ができました。
- 子どもが持ち帰ってきたので、より頑張らなくてはいけないという思いが強くなりました。三角ゴミをなくしました。
- 実行出来るかはそれぞれありますが、時々でもこういう取り組みがあると、環境のことを考えさせられます。自然との共存が大事だと思いました。
- 子どもから、「洗濯のすすぎは1回にしてる？」や「フライパンの鍋の油はふきとってから洗って」などの声も出て、学校での授業の内容がとても役に立っているのだなと感心しました。子どもも「河川浄化チャレンジ期間が終わっても続けたい」と言っていました。

今後の取り組みへの決意等（主な回答）>

- 全ての項目が完璧に出来ればいいと分かっているけど完璧に出来ないのが現実です。少しずつでも心がけていけたらと思います。
- 小さな事かもしれませんが、1人1人が意識して行動する事で絶対に変化していくと思います。みんなで心がけていきたいですね。
- 毎日の積み重ねが大切だと考えさせられました。これからも気を付けて取り組んでいこうと思います。
- 河川浄化チャレンジを通して、色々考える事ができた。環境について、関心を持つ事ができた。これからもできる事は続けていこうと思います。
- 改めて日常でできる水質浄化のためになることを考えるきっかけとなったので良かったです。
- 普段の取り組みを改めて考える機会となりました。子どもとも取り組みについて、普段から気をつけている事を知ってもらう機会となりました。
- キレイな川になるために、できるかぎりがんばりたいと思いました。子どもたちが大きくなっても川がキレイでいられたらいいと思います。
- 取り組みを続けていくことが大切だと感じます。
- 以前から取り組んでいたものもありましたが、洗剤の使用量など今回意識して実行する機会になりました。これからも続けていきたいと思っています。

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2018-6113-008	芦田川きれい☆きれいプロジェクト「河川浄化チャレンジ月間」	芦田川環境マネジメントセンター 会長・田中 宏行

助成事業の主な実施箇所

凡例
▲ : 調査地点
○ : 協力学校
・ 学区

河川基金ロゴ等表示状況写真

遠景	近景

延べ参加人数	一般	1790名	スタッフ・事務局	13名
マスコミ等の反響	FM ふくやま（ラジオ）で取り組み参加者募集の放送（10/19～11/30） 経済レポートに参加募集の記事（11/1 記事添付） 経済レポートに取り組み結果報告の記事（3/1 記事添付） 中国新聞に芦田川に関する記事が掲載（3/1 記事添付）			